



… 小学校関係者



… 幼児教育関係者



… 学識経験者

架け橋部会の協議より

小 検証保育では、先生の子どもへのちょっとした言葉掛けが優しいと思いました。小さい声でのつぶやきなど参考になりました。日頃からどのようなことに意識しているのですか？

幼 子どもたちができることを自分たちで進めてほしいと思い、あまり声を掛けないようにしています。それでも、自分では今すべきことは何か、必要なことに気付かない子どもたちもいるので、子ども同士で言葉を掛け合って進めていけるように、誰かにつぶやくなどして働きかけています。そして、テンポよく進めていくこと、次の活動に期待感をもって取り組めるようにすることを意識しています。

小 石鹸を使った泡遊びで、『ねろ』はどう？と先生が問いかけると子どもが『こういうふうにするとねろねろになるんだよ』と言って、先生と子どもとで通じる言葉がある。子どもが発信した言葉を使ってやり取りするのはすごくよいと思いました。園では、子どもたちがそれぞれに好きな遊びをしています。保育の「目標」などはあるのですか？

幼 はい。教師は「ねらい」をもって保育しています。子どもには遊びの「目的」があります。遊びによってその子どものやりたいことは違うので、それが「目的」になります。同じ遊びをしても一人ひとり違う目的を持っている。したいことが目的になっています。子どもの遊びを見守りながら、やりたいことが実現できるように手助けをしようと意識しています。

小 園ですと、興味をもったことに突き詰めて遊んでいる姿があり、このような経験が小学校に入ったときに、「園でこんなことしたよ」「こんなことをやったら楽しかった」と他の子に伝えてあげていくのではないかと思います。一人ひとりの目的があって納得がいくまで遊ぶ、やり尽くす。そのような経験が、小学校での学びの広がりになるように思います。

学 降園前の振り返りの時間に、タブレット端末で先生が今日の遊びを映して、それを子どもが見て発表をしていましたね。別の子どもは先生が撮った写真はないけれども、自分が今日、楽しかった遊びの話をしていました。私は、子どもが話したいことを教師がタブレットで補足していくと、子どもの思いや言葉を引き出すという点からも、小学校教育の学びのつながりを意識することになるように思います。

学 振り返りの時間の共有には、どんな教育的価値があるのか、「何を共有したのか」という確認が重要ではないでしょうか。



「学びのつながり」で学んだことを教えてください。

小 小学校側としては幼稚園・保育園のことが見えてないと改めて思いました。また、幼稚園・保育園の生活班は、何人ぐらいでやっているのか、指導はどこまでされていくのかなど、わからないことがわかりました。

幼 例えば、「集中して取り組む」とはどの程度なのか、小学校側はどのような姿を求めているのか。具体的な子どもの姿をとおしてお互いに理解し合うことが大切だと思いました。

幼 そもそも小学校と幼稚園・保育園では、学び方が違います。集中して話を聞く態度や姿勢は、園でも場面に応じて指導しているので、発達のレベルをすり合わせていけば、私たちが指導していることを共有できるのではないかと思います。具体的な子どもの姿を思い浮かべて、どこが一緒なのかを語り合うと、わかり合えるのではないのでしょうか。

幼 時間を守ることに考えてみました。園では子どもが何か製作していて「途中だったらまだ続けていいよ」と言うことが多いです。小学校は時間を守ることが大切になってきます。一人ひとりを受け止めることは重要ですが、Ⅱ期の意味を考えますと、園では、集団としての意識をもって、みんなで活動する楽しさも育てていきたいと思いました。

小 小学校に入学すると、時間割があるので、「時間だから」と子どもたちに切り替えるように言ってしまうときがあります。しかし、見通しをもって取り組むことができるように声を掛けることで、少しずつ活動のメリハリが付けられるようになります。

幼 個々と集団、どの場面でも子どもたちの取組を丁寧に認めていくのが大事だと考えています。小学校では授業の学習がメインになってくるので、子どもたちが小学校に入学するまで、子どもたちがもつ力をいかに育てていくか、幼児期でのいろいろな体験が重要だとあらためて思いました。

小 例えば、算数の授業でプリントを用意すると、友達と助け合うような姿がある。子どもたち一人ひとりが何か自分ができたという達成感や充実感をもって入学してきていることを実感します。みんなでやった、取り組んだという経験が重要だと思います。

小 1年生入学当初は、たくさんの先生がフォローし、居場所をつくらうとしています。その一人ひとりの姿や集団の姿といった、その子どもたちの様々な姿を共有することが子ども理解にもつながると思いました。



保幼小で大切にしたいことを協議



港区版 架け橋期のカリキュラム

— 接続のとびらをあけて —

子ども一人ひとりがどんな思いでいるのかを知ろう

子どもが安心して発言し、みんなに受け止めてもらえる温かい雰囲気をつくろう

子ども主体

子どものやりたいやり方、子どものペースで取り組めるようにしよう

思いや願いをつなごう

保育の中で何を大事にしていくかを明確にしよう



幼児期からの学びがあることを念頭に授業をしよう

子どもたちに「対話」を、大人の私たちも対話をしよう

保幼小の互いの認識を大切に、もっと具体的に語ろう



架け橋プログラムとは

5歳児から小学校1年生までの2年間を「架け橋期」として、架け橋期の教育の充実を図るため、保育園・幼稚園・小学校の保育士、教員はもとより、保護者や地域住民等、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人ひとりの多様性に配慮した上で、全ての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることを旨とする。

港区のカリキュラムの特色

5歳児と小学校1年生の架け橋期の2年間を三つの期に分けて考え、学びのつながりを意識できるようにしました。カリキュラムには、共通の視点を設定し、学びをつなぐ保育士や教員の関わり方について、具体的に掲載しました。

港区の取組

港区全体で質の高い教育を推進します

- 育みたい資質・能力の連続性・一貫性を意識した取組
- 学びのつながりを一層意識した取組
- 実行し、実効性につなげる取組



Ⅱ期

保育園・幼稚園・小学校で大切にしていることをやってみよう！



子ども理解

- 一人ひとりの思いを肯定的に受け止める。
- 一人ひとりの興味や関心を知ろうとする。
- 「やりたい」「こうしたい」という子どもの意識の流れを大切にする。

内容の工夫

- 子どもの問いを引き出すことを大切にする。
- 子どもが気付いたことから学びをスタートする。
- 字だけでなく絵や写真を使う。

おいしい葉っぱだから青虫は「むしゃむしゃ」と食べている思う



「なぜ？どうして？」の問いを引き出していく(検証授業より)

安心感や自己肯定感につなげる関わり

- 見本となる行動や言動を認めたり褒めたりする。
- 「どうしたらいいと思う？」と尋ねる。
- 子どもが考える時間や機会をつくる。
- 指示を短くシンプルに、具体的に一つずつする。



活動や展開など指導上の配慮

- 「必要感」を伴う展開にする。
- 具体的な活動やアクティビティを取り入れる。
- 一日の大まかな見通しや時間を意識できるようにする。

保幼小が共通して大切にしていること

対話や表現の工夫

- 表現方法を選択できるように選択肢を広げる。
- 対話の機会を多く取り入れる。
- 自分の思いを表現できるようにする。
- 子どもが考えたことが伝わるように、言葉を補足したり、わかりやすい言葉に言い換えたりする。
- 多くの人と関わることができるようにする。

うまうまいかな…



もっと高くしようよ

転がすという目的に向けて、友達と試行錯誤しながら遊びを進めている(検証保育より)



きれい！
どこで見つけたの？



地域の方とのつながりを感じたり、季節が感じられる環境(検証保育より)

地域の方から
いただいた
木の実だよ

環境の構成の工夫

- 環境から学べるようにデザインする。
- 自ら主体的に動くことができるように、表示などを丁寧につくる。
- 目で見てわかる掲示物にする。
- 活動に応じて場や空間の作り方を工夫する。



みんなに
お話ししたいことが
あるんだ



降園時の振り返りの様子(検証保育より)

子どもたちは「自分でできた」という達成感をもって入学してきていると感じます。幼稚園・保育園では友達との関わりを大事にしていると思いますので、その成果を小学校で活かしていくことを意識したいです。

集団の中で個々を大切にすることはとても重要だと思いました。幼稚園・保育園でもみんなで活動する中で、一人ひとりを受け止め、みんなで活動する楽しさが味わえるように意識したいです。

